

香り立つ春のオランダより...

March 2009 No 5

Newsletter Circle of Storytelling

語りの輪 ニュースレター



冬プログラム2008

語りの輪企画初めての冬の公演とワークショップが2008年12月末に行われました。冬の静けさに包まれるように、夏とはまた大きく異なるエネルギーが感じられた冬プログラム。共に同じ空間にいること、そしてその空間に生まれるエネルギーを分かち合うこと。静かに思い、深く考えるひとときとなりました。

公演では3つのクリスマスストーリーが語られました。特に最後のストーリー「ろうそく」。第二次世界大戦中の強制収容所でのクリスマス物語は、聴き手の心の中にもあたたかなロウソクの光を灯したようでした。

ワークショップのテーマは「心に響く語り方—沈黙を学ぶ」。ある参加者から次のようなメッセージをいただきました。(ご本人の許可を得て掲載しています)

Dear Wim,
I have attended your workshop on 28 Dec in Tokyo.

I wanted to thank you so much for the precious time I've spent with you and the other attendants. Your words, your message were very inspiring and stimulating that may affect my future as a teacher and a mother and hopefully a storyteller. I am not yet an English teacher, for am now studying to become one, but during the workshop, I was so excited and could not help feeling the joy of learning.

Last year, I've attended a workshop run by our local library about storytelling. There, I was forced to memorize the whole story which was so stressful that I almost gave up to tell stories. But meeting you, gave me hope to try storytelling once again! I also respect your personality and the inner and outer world you create. In this complicated materialistic world, you give us hope and dream.

Thank you again for the wonderful time. I am looking forward to see you again.
(From Hiroko-san in Tokyo)

ウィムさんへ、
私は12月28日、東京でのワークショップに参加しました。

ウィムさんと参加者の皆さんとの貴重な時間
に感謝しています。ウィムさんの一言一言や
メッセージに強く心動かされ、教師、母親、そ
して語り手としての私のこれからの将来に何
らかの影響を与えるでしょう。私は今、英語
教師となるべく学んでいる最中ですが、この
ワークショップの間中、学ぶ事の楽しさ、喜び
を感じずにはおられませんでした。

昨年、私は地元の図書館で行われたストー
リーテリングのワークショップに参加しまし
た。そこで私は物語を丸暗記するよう指導さ
れました。それは私にとってとても緊張を要
し、お話を語ることをあきらめようかとさえ
考えました。でも、ウィムさんとの出会いは、
その私にもう一度ストーリーテリングを試み
る希望を与えてくれました！私はウィムさん
の人柄、そしてウィムさんが創りだす内なる
世界と外の世界に敬意を感じます。この複雑
な物質社会において、ウィムさんは私たちに
希望と夢を与えてくれました。

素敵な時間をありがとうございました。また
お会いするのを楽しみにしています。

(東京在住のヒロコさんより)

このメッセージは、ストーリーテリングを
通してウィムが行っている仕事の深い意
味を示しています。たんなるストーリーテ
リングの公演ではなく、そしてまた、ただ
おもしろいだけのワークショップやレク
チャーではない。それはどこかで、人々の心
の奥深くにある魂に触れ、働きかけていま
す。世界の多くの人々にとって生きるとい
うことが困難な今日、私たちはもう一つの
声を必要としています。ストーリーテリ
ングが、人々に感動やひらめきを与え、魂に
響くそのもう一つの声でありますように。

夏プログラム2009

あっという間にまた夏がやってきます！この夏の来日では、北欧スカンジナビアの物語を中心に、「The Voice in Your Heart -内なる声に耳をすます」第2弾を開催します。ストーリーとして物語そのものにたくさんのすばらしい要素が詰まっているこの物語。古くから伝わる長編ストーリーを小木曾綾氏の独創的な音楽とともにお届けします。

ワークショップ及びレクチャーも含め、東京、名古屋、大阪、京都を中心にこの夏も各地を廻ります。プログラムの詳細は、次号(6月発行予定)にて。語りの輪ウェブサイト(www.werder.jp)でもご覧になれます。

プライベート・コーチング

2009年夏、ウィム・ウォルブリックによるプライベートコーチングにご興味のある方またはご希望の方は、語りの輪(info@werder.jp)までご連絡ください。一つのストーリーを深める指導、語り手として生きる又はプロの語り手になることに関する相談、授業法に関するコーチング、ストーリーを通して自分の人生を見つめるコーチングなど、様々な内容があります。

『あるソウとハチドリの話』

ある日のこと。ソウはハチドリが地面の上に仰向けに横たわっているのを見かけた。その鳥のちっちゃな足は空中に持ち上げられていた。

「ハチドリよ、いったい君は何をしてるんだい？」ソウは尋ねた。

「今日、空が落ちてくるかもしれないって聞いたのよ。もしそれが起こるのなら、私は少しでもその空を持ち上げるために準備しているのよ。」ハチドリはそう答えた。

それを聞いたソウは笑ってそのちいちゃな鳥をばかにするように言った。「君は**その**ごく小さな足でこの空を持ち上げられると考えるのかい？」

「私だけでじゃないのよ。」ハチドリは認めて言った。「でも、一人一人がその人にできることをしなければいけないし、これが私にできることなの。」





語りの輪ウェブサイトより、ウィムのワークショップ及びパフォーマンスの模様を動画でご覧いただけます。

ウェブサイト：www.werder.jp

「逸話」

ある催しで行われたストーリーテリングの後、記者が一人の子どもにどうだったかと尋ねた。その子は答えた。「これは僕が今まで見た中で一番すてきなテレビだったよ!」



寄付のお願い

ストーリーテラー、ウィム・ウォルブリックの活動は、今日の日本社会で意義ある活動として、来日を重ねるごとにその重みを増しています。これまでも数多く存在する世界各国のストーリーの口演、教育をはじめとした社会におけるストーリーテリングの重要性についての講演、そして様々なワークショップを日本各地で行ってきました。また、そうした活動の一環としてニュースレターの発行とホームページを開設しています。これらの活動はストーリーテリング文化の復興、そしてストーリーテリングを通して私たちが自分自身を見つけるきっかけとなっています。

今後ともこの活動の継続性を保つために、本趣旨にご理解、ご賛同いただける方々から広くご寄付を募っております。ご寄付は会費と違い、特に定額はありません。どなたでも、いくらからでも受け付けております。お寄せいただいた寄付金は、年3回のニュースレター発行費（印刷及び郵送代）、ウェブサイト維持費、及び日本国内における活動費の一部として活用させていただきます。ご協力、ご支援をよろしくお願い致します。（すでにご寄付くださった方々にお礼を申し上げます。お寄せいただいた寄付金は大切に使用させていただきます。ありがとうございました。）

寄付の方法

寄付は振込みでお願いしております。

※銀行振込の場合は、お手数ですがお振込み後にお名前、ご連絡先、使いみち（希望がある場合のみ）をメール info@werder.jp までお知らせください。

◆郵便振込口座：00730-1-39874 口座名 語りの輪

◆銀行振込口座：北陸銀行 堀川支店(普通) 5043970 口座名 語りの輪

Circle of Storytelling, Eendengang 75, 7552 KN Hengelo, The Netherlands

tel: +31-74-2422696 Web: www.werder.jp Email: info@werder.jp

発行・編集: 米屋香林 編集協力: Wim Wolbrink 印刷: RDS, Hengelo.nl